

ポスターに見る世相 サイケデリック

ロングヘアーにバンダナもしくはつば広の帽子、丸いサン
グラスにたっぷりの髭をたくわえ、ニットベストにベルボトム
ジーンズ。1960年代後半に都会の物質文明を忌避し、自然
とともに愛と自由を唱えて生きることを理想とした若者たち
が、いわゆるヒッピー文化を作り出した。『サージェント・ペ
パーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』の頃のビートルズ
を思い浮かべる人もい

らる。このヒッピー文化と
いうカウンター・カルチャ
ーがのちのシリコン・バレ
ーへと繋がっていくのは有
名な話であるが、ポスタ
ー・デザインにもこのムー
ブメントは強く反映されて
いる。ヒッピーの若者たち
が好むヴィジュアルあるい
は音楽の傾向と、当時の若
者が多用し社会問題とも
なった幻覚剤による効果が
デザインとして定着した
「サイケデリック」というス
タイルである。サイケデリ
ックとは、精神科医のハン
プリー・オズモンドが1957

年の学会で発表した概念で、幻覚剤によって生起する心理
的な高揚感、極彩色の渦巻き状パターンに象徴される視覚
や聴覚などの形容表現を指す。

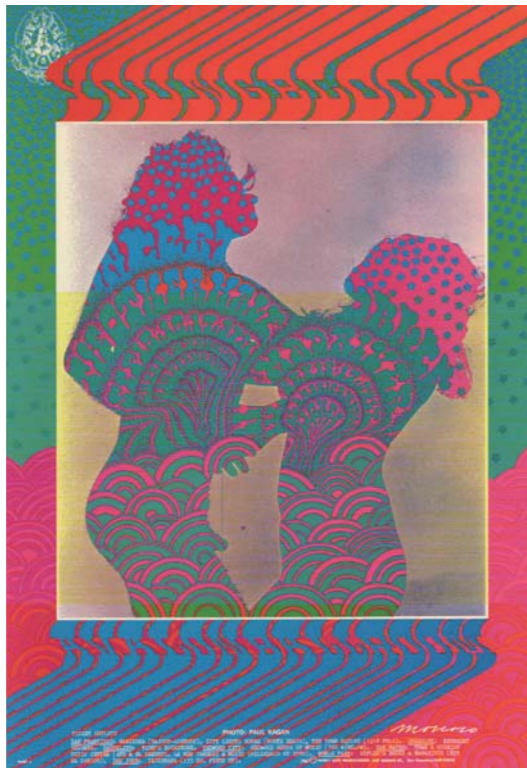
赤、緑、青、紫の強烈な組み合わせ。判読不可能なまでに
歪む文字。飛び散る星々やベイズリー・パターン。サイケデ
リック・スタイルのポスターは、幻惑的な効果を狙ったデザ
インが特徴である。それらの色彩や形象の歪みは、先に記し

た幻覚剤の効果によって実際に体験される視覚パターンか
ら援用されている。サンフランシスコのアヴァロン・ボールル
ームで開催されるヤング・ブラズのライブのために、ヴィク
ター・モスコゾがデザインしたポスターは、サイケデリック
ク・スタイルの代表作の一つで、扇を持って踊る二人の女性
のシルエットが、星や波の反復パターンと振れた文字群で覆

われ、眼前が突然スパーク
して世界が極彩色に変容
したかのような印象を与
える。ここでは、文字によるラ
イブ情報の共有よりも、視
覚的パターンとしての感覚
の共有(ライブ会場で音楽
的に共有する感覚の先取
り)に力点が置かれている
ことが明らかである。それ
は当時の若者たちの心境、
つまり出来事の意味を解釈
するよりも現実にあるもの
を受け入れること、という
態度の表明にもなっている
のだ。

サイケデリック・スタイ
ルは1960年代から70年代

の時代性を強烈に刻印しているが、ポスターのデザインとし
ては、『ポスターの歴史』を著したジョン・バーニコートも述
べているように、19世紀末のアール・ヌーヴォーや象徴主義
との類似性を持っていることも重要である。色使いこそそれ
ほどには強烈でないにせよ、文字や形象が植物的なうねり
の中で表される様相は、直接的な影響源とは言えないかもしれ
ないが、強い親和性を示している。何よりも、そのようなデザ



ヴィクター・モスコゾ「ヤング・ブラズ」1967年 AN.5024-51

インが、都市文明の爛熟から見出された自然、そしてその自
然に世界の深淵を見る象徴化の眼差し、というヒッピー文化
と同様の態度から生じているのだから。

サイケデリック・スタイルは日本のポスター・デザインにも
強く反響している。横尾忠則や宇野亜喜良あるいは田名網
敬一といったデザイナーたちがサイケデリック・スタイルと
ポップ・アートを混在させた作風で一世を風靡したのはよく
知られる通りである。

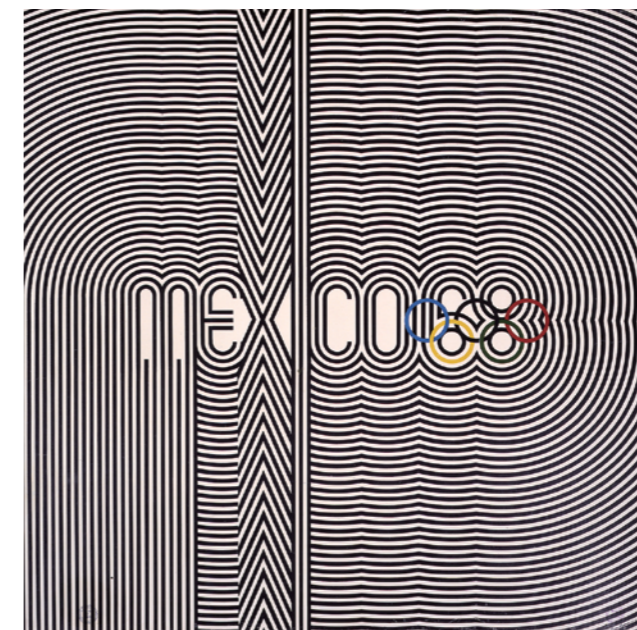
だがここではそれら
日本の代表作ではな
く、少し別の観点から
サイケデリック・スタ
イルの援用を見てお
こう。ヒッピー文化と
いう限定された枠組
みからスタートしたス
タイルが、広く社会的
現象になり一般化し
た結果とも言えば
いいであろうか。その
実例の一つが、1968
年に開催されたメキシ
コ・オリンピックの公
式ポスターである。

このランス・ワイマンによるメキシコ・オリンピックのポス
ターが、歴代のオリンピック・ポスターの中でも異彩を放っ
ているのは一目瞭然である。ワイマンはニューヨークを拠点
として活動しているデザイナーで、ピクトグラムの第一人者
として知られている。メキシコ・オリンピックのサイン計画が
彼の実質的なデビュー作となった。

これまでの(あるいはこれ以降も)オリンピックのポスター

といえば、競技選手の姿を描き出すか開催地を象徴的に表
すデザインが典型であった。しかし、このポスターにはそれら
の記号は一切登場していない。ロゴタイプのみがポスターと
なったものだが、異様なのは、MEXICO68という文字を囲む
線の反復パターンである。極彩色は使われておらず、五輪の
カラーを表現した箇所以外は墨一色であるが、細い縞模様
の強迫的な反復は目に痛く、モアレ現象を起こす幻惑的の効
果を生み出している。

デザイナーのワイマン
によると、このパター
ンは、メキシコの古代
遺跡のイメージと現
代のオプ・アート(幾
何学図形の反復パタ
ーンで錯視効果を狙
った芸術)をミックス
させたものだそうだ。
オリンピックに関連さ
せるとすれば、トラッ
ク競技場のイメージ
や選手の運動性が重
ね合わされていると言
えなくもない。しかし、



ランス・ワイマン「第19回メキシコオリンピック1968年」1968年頃 AN.4827-1

同時代のサイケデリックの幻覚性の反響を読み取らないわ
けにはいかない。この大胆なデザインが受け入れられたの
は、サイケデリックの浸透が背景にあるのだ。幻惑的なオリ
ンピック・ポスター、スポーツと薬物の関係を考えて、少し
皮肉めいたデザインにも見えるではないか。

参考文献:ジョン・バーニコート『ポスターの歴史』(美術出
版社、1974年)

(美術工芸資料館 平芳幸浩)